

あかき情けの

あふれてか

こひしき友の

染められて

折りから告ぐる

雁が音の

嬉しさあまる

けふの音信

世の習ひ

かはり行く世の
つよきはさかえ
日々にたぐる、
世界の地圖に

全 人

ならひとて
かよわきは
ことわざを
見するかな

説 林

遊戯の方針(承前)



町田 則文

第二には、其遊びの重なる事柄は、皆筋肉を勞する、決して文學的などいふ事ではなくして、皆筋肉を動かす、即ち身體の活動に關する事が多い。頭腦を使ふといふような遊びは子供の内はない、皆必らず相撲の取合ひとか、走りツことか、筋肉を發育させるを主眼として居る、甚だしきは粗暴的原素を含んで居る、男ならば戦争事とか、人を

打つとか、皆粗暴の原素を含んで居る、これは矢張百分中七十七位さう云ふ意味の遊びである、或は泥を捏ねて假山を造るとか、假川を作るとかの如き手藝的の遊びも其外にある、之れ等と前の筋肉のを合すれば百分中八十五半は身軀的發動に關する遊びが多い、さう云ふ時代に當つてはさう云ふ事實が有るのであるから、さう云ふ時代に吾々が強いて話をして聞かすとか、智力的ばかりの要素を含む遊びを課するときは子供の性質に適合ぬ事にならうと思ふ。子供は或る形か他の形に於てさう云ふ事實があるとすれば、身體を働かすと云ふやうな遊びの種類でなければ子供には適せぬ事かと考へる。

第三は文學とか、技藝とか、音樂とか、さう云ふ智力的の嗜みは眞に少ない、況んや人類を恵む

とか、又は智力的の働きは、其遊びの中に少ない殆ど皆無と言つて宜い、と云ふやうな事實が實際上より統計になつて居る、

第四に身體を活動させる事實は八歳から十三歳までが非常に激しい、それを好む事が八歳よりして次第に増して行く、それから後には段々減じて行く、これに反對で段々十三歳後になると先刻申した技藝とか文學とか人類を恵むと云ふ遊び、他の凡て同じ遊びをするにも醫者の眞似事をするとか、人類を助けるやうな遊びをするとか、十三歳後から段々増して、一所に集まりて繪を畫いて遊ぶとか云ふ事が、十三歳後になると増して行く、殊に粗暴な遊びと云ふものは十一歳位が最も盛んであつて、さうして殊に其遊びが夏に多い、冬になると減ると云ふ事實がある、夏は蜻蛉を捕ると

か、蝶々を捕へるとか、夏向は激しくて冬になる
と餘程減つて行く、と云ふやうな事實が統計上か
ら得られた事である、

第五には男の子と女の子は自然とドウも合同し
て遊び仲間に入らぬと云ふ事實を得らるゝ、段々
々調べると男女一所になつて遊ぶ事が少ないと云
ふ證據が得られた、従つて女兒は或は人形を並べ
て見るとか、凡て如何にも内輪の遊びをするに云
ふ事が男の子の三倍だけ多い、それから女の子は
人と實際的の遊びをする事多し、或は飯事をする
とか、お客さん事をして遊ぶとか、社交的に關係
した遊びが男子より五倍程多い、それから手業の
遊びをするのは、例へば同じするにも泥の細工を
するとか、或は紙を折つて遊ぶとか、さう云ふ手
業に就ての遊びと云ふものは男より三倍多い、亦

それから人を恵むとか、人の世話をする事の遊び
は女子の方が男子より二倍多い、然るに男子はド
ウしても粗暴的の遊び、或は走りッこをするとか
蜻蛉を捕るとか、犬を逐つ駆けるとか云ふやうな
粗暴的の遊びが女子より五倍多い、女子はさう云
ふ事をする事は甚だ少なし。其他身体に關する所
の遊び、身体を活潑にヒドク身体を活潑に遊ぶ事
が女子より七倍程多い、それ等は子供が自然の遊
びから起つた統計である、それに依つて考へて見れ
ばドウしても男女は一所に遊んで同じやうに興味
を感ずると云ふ事は實際の種類を調べてドウして
も無いと云ふやうな事實の統計が出来て來て居る
のです、故に尙之を申して見ると、身体を活動さ
せると云ふ方の、筋肉を活動させると云ふ點から
申ますと、男子の七十七に對して女子は十位の割

合である、勿論此等は元とより他人、然かも外國人の集めた材料ですから、一々吾が日本の今日の實際の兒童に就て調ぶれば割合が違ふかも知れぬが、とにかくそう云ふ遊びに就て調査をすればさう云ふ事柄である。故に私共が幼稚園なり小學校に於てなり子供の遊戯についてさう云ふ心持で調ぶれば種々發明する事があらうと考へる、其上に女子は餘程他人の造つて呉れた遊びを男子よりは一層好むと云ふ事がある、男子はドウしても他人の造つたは少し氣に入る遊びでも好まぬと云ふ事も餘程ある、其等から考へて見れば女子の方は早くから人と交際すると云ふ社交的の考へ、自己及び他人に對する感情と云ふ事が餘程早く發達する男子の方は何時まで經つても野蠻的、粗暴的と云ふ事は免れぬ、故にドウしてもさう云ふやうな遊

びは丸て自分が獨りで以て他には構はず、自分さへ宜ければ宜いと云ふ遊びを好んで居る、蜻蛉を捕つても、犬を打つても、自分が先さに行つて犬を打ちたいと云ふ事ばかり考へて居る、男子の方には所謂野蠻的心持が年を取るまで遺つて居る、自分さへ宜ければ宜い、自己及び他人と云ふ考へが乏しいと云ふ事が考へらるゝ事が出来るです、さう云ふ風に一体男子と女子の關係と云ふものが彼等自然の遊びに任かして、それに就て判斷をして見れば誠に相違がある、故に吾々が遊戯を作つて子供を遊ばすに就ても、強ち此事が充分正しいとは言はれぬであらうが、併ながら此遊戯をさせるに就ては大に吾々が顧慮すべき事では無からうか、今日種々の遊戯法に就ても、面白い遊戯法がありませんけれども、さう云ふ事實から出來て

來た遊戯は乏しいと思ふ。故に幼稚園なり小學校に於ては、其邊に就て考へる事が必要であると云ふ考へであります、(ついで)

There is no riches above a sound body, and no joy above the joy of the heart.

健康の身體に越ゆる富なく心の喜に勝る喜なし



雜

幼稚園案内



録

東 基 吉

女子の職業としての保姆
近來に至つて、女子の執るべき職業の路は頗る開けた。電話交換手としても女子を採用するし、郵便事務員としても女子を採用するし、其他會社とか商店などに於ても大に女子を採り用ふといふ傾向になつて來た。之はつまり女子の事業に對する價値といふものを漸く世間が認むるに至つた